

KBS

ケイビーエス株式会社

台



[社内報]

7H

22

発行:ケイビーエス株式会社

編集長:高允男 / 副編集長:重村正美

編集:KBS企画部

〒544-0033 / 大阪市生野区勝山北2-16-17 / 電話06-6716-5665 / FAX06-6711-2104 / E-mail:kbs@kbsjapan.com / NiftyID:

謹賀新年

一九九九年

卯年。兔年。うさぎのように **飛躍** しよう。

新年明けましておめでとうございます。

今年はずき年です。うさぎのようにぴょんぴょんと飛び跳ねて、明るい年になることでしょう。いや、そうなります。

昨年10月に金大中韓国大統領が日本を訪問しました。そして、韓国における日本文化の解禁を進めると言われました。2002年にはワールドカップが日韓共同で開催されます。今後、日本と韓国は経済的、文化的に一層交流が深まることでしょう。

また、昨年11月の終わりには、中国の江沢民国家主席が来日しました。中国とも交流が活発になります。

しかも、日本の国際化もますます進みつつあります。ということは多言語の出番がより一層多くなることになります。

そこで、KBSの役割がより一層必要になります。

当社において、マックによる組版がほとんどですが、新年からはWindowsによる組版をもっと進めます。現在、カラオケなど一部は電算写植を使っていますが、写真や画像も入らず、文字のみ。しかも印画紙しか出力できない。もうそろそろ、このシステムは去る運命にあるようです。

多言語の印刷物制作においては常に先を進むKBSは、いつも一歩先を進み、日本をはじめ、世界に役立つ会社としてぴょんぴょん飛んで行きます。

高 仁 鳳(ko inbong)

けいびーえす



以前一緒に仕事をした済民日報社の前にて

11月13日(1日目)

- 08:00 関西空港、KALカウンター前集合。
- 09:30 KAL大韓航空機で、済州へ。
- 11:20 済州空港到着。現地案内の世一旅行社の迎えを受け、観光バスに乗る。済民日報社からも迎えにきていた。高社長はこの済民日報社が迎えにきた車に乗って、済民日報社へ。
- 12:00 済民日報社到着。社内見学。済民日報日本語版の創刊にはKBSも制作に加わったのだ。
- 12:40 昼食、南道会館。돌솥비빔밥(石焼ピビンパブ)を食べる。
- 13:30 三姓穴など観光へ。
- 14:00 済州道民俗自然史博物館
- 15:00 書店(漢羅書籍タウン)「アレアハングル815」の説明書などを購入。
- 15:40 龍頭岩観光。
- 16:00 民芸百貨店
- 16:40 ホテル着。済州グランドホテル着。
- 18:30 夕食のため、ロビー集合。
- 18:40 韓国館に到着、韓国式料亭。夕食はここで。傍には女性がついて酒など注いでくれる。昔のヤンバンの気分。



刷りあがった新聞



済民日報社長

11月14日(2日目)

- 08:00 ホテルで朝食。
- 09:30 観光へ出発。
- 10:30 山房山に到着、山房窟寺、薬水が飲めるところまで登る。
- 11:00 山房窟寺に到着。ここの水を一杯飲めば、一年若くなる。3杯飲めば3年若くなる。4杯飲めば元にもどるといふ。
- 11:50 乗馬場。カウボーイになった気分で、馬に乗る。
- 12:30 射撃場。本物のピストルに実弾を入れて打つ。まあ、生まれてはじめての体験。日本ではこんなこと出来ない。
- 13:12 昼食。キジのしゃぶしゃぶだ。
- 14:00 新羅免税店。
- 15:00 天帝淵滝。
- 16:20 志岩高麗青磁の窯元。すばらしい。
- 17:00 お化け道路。
- 17:30 毛皮専門店。
- 19:10 夕食。ここにソウル支社長一家が参加。
- 21:30 ホテルに戻る。
- 22:15 支社長家族と高社長、上間部長が豚足を食べに。



カウボーイ気分満喫の社長



若くなった? 山房窟寺にて

射撃で高得点



## 11月15日(3日目)

- 05:30 ホテルを出発。日の出を見るために、城山日出峰へ。  
 06:30 城山に到着。峰の方へ登って行く。  
 07:00 太陽が昇り始めた。しかし、ちょうどそこに雲がかかっている、太陽はうつすらと見えた。それでも、壮快!  
 11:30 城山民俗村。済州道の昔の生活ぶりがここではそのままある。  
 12:30 萬丈窟。  
 14:00 昼食。ブルコギ。日本語で言えば、焼肉だが、日本での焼肉とは違う。食堂の名前は「제주농부 / チェジュヌルボム」  
 15:00 ショッピング。KAL免税店へ行く人と市場へ行く人が分かれる。  
 19:00 大韓航空 KE733で大阪へ。



長い坂道を上り、目の当りにしたのは感動的な日の出の瞬間



太陽に向かってお祈りすると願い事が叶うという言い伝えがあります。どんな願い事をしましたか？

## 済州美食紀行

MAC部 稲木 隆文

韓国へ行ってたくさんのすばらしい景色を見て来たが、行く前から一番興味を持っていた事は、やはり「食」についてだろう。だから私は、「～を見て来た」などは書かずに、食べ物1本に絞って書く事にした。

韓国の魚介類は海が日本と同じなので、ほぼ一緒だった。出された魚料理は、日本風にアレンジしてあったので普段韓国の人がどんな魚料理を食べているのか味わえなかったのが残念だった。鍋でイカとタコと貝が入っていたが、イカ・タコはゴムのように固く、貝は砂を吐かせてないので、とてもじゃないが食べられた物ではなかった。

肉料理は中国の影響を受けているのかもしれない(日本で言うと沖縄風)。こちら韓国肉料理で食べる事が出来たのは焼き肉だけだったので、よく分からなかった。肉と言えばキジ肉を食べたが、鳥と言うより豚に近い味だった。

野菜は、どれも小振り。白菜なんか日本の1/4くらいしかなく「こんな小さい白菜でキムチ漬けるの大変だな」と思った。果物はみかんと柿が置いてあり、柿は熟して柔らかくなった物を売っていた。みかんは味も見た目も日本と同じだが、成っている木は、1メートルくらいしかなくかなり低かった。後から聞いたのだが、どうやらこの島は風が強くてあまり大きく育たないらしい。それに年間の15%くらいしか晴れた日がなく、日照時間も関係しているのかもしれない。

野菜の中で一番思いに残っているモノと言えば、高麗人参の強烈な臭いには参った。こう文章を書いていてもあの土臭い臭いが甦って来る(オェ～)。それに屋台で売っているサナギには思わず逃げ出してしまった。その他の屋台で売って

いる物はどれもおいしかったけど。

スーパーでは、豊富なインスタント食品が売られているのに驚かされたが、キムチだけは、パックや瓶に入っている物はなく、キムチが日本の肉屋の様に計り売りをしていたのは「さすが、韓国!」と唸った。そこでキムチを買おうと思ったが、税関で引かかるとして諦めたのだが、今から考えると非常に惜しいことをしたと思う。韓国で食べたキムチは店によって味が違ったがどれも美味しく、話で「韓国のキムチは辛くない」と聞いた意味がやっと分かった。

飲物は、生水が飲めないのでご飯の時に出てくる物はお茶で、そのお茶も日本の様に麦茶一辺倒ではなく、「とうろこし茶」や「柿の葉茶」等々その店によって様々だった。自動販売機はコカ・コーラ社が約8割を占め、売っている商品も「パワーエイド」なる青色の怪しい液体が主力商品らしい。この「パワーエイド」と言うのがどうやら日本で言うところの「アクエリアス」に当たるらしく、オリンピック公式飲料になっていたのだが、味は甘ったるくサイダー風味で、さわやかな水分補給飲料とはほど遠かった。姉妹商品として、赤色と緑色もあったが、飲む気にはなれなかった。韓国の自動販売機は、カップと缶と一緒に売られているのが普通で、値段は800W(ウォン)~1000Wが一般的な相場だ。

韓国の喫茶文化は日本より発達しており、どの店もおしゃれで、コーヒーはほとんどなくお茶の種類が豊富で、甘い物からすっぱい物ま

でなんでもあった。自分ば「きなこ茶」を飲んだがなかなか美味しく、また飲みたいと思った。日本でも発売すればいいのに。

お菓子も日本の会社が出しているのか、単なるパクリか分からないが、パッケージが全く同じ商品がいっぱいあった、ここにも「高麗人参ガム」なる物が売ってあって、臭うとしたかに高麗人参の臭いがした。

この旅行で食べた物は、キムチ、ナムル、石焼きビビンバ、お造り魚の焼き物、アワビ粥、チジミ、ホテルの朝食、キジ鍋、海鮮鍋、焼き肉、お菓子、飲物色々、だった。

この旅行で出された食べ物(自分のお金で買わなかった物)全てが、日本人観光客相手用に作った物だったので口にはあったが、いつも韓国人の人がどんな料理を食べているのか、たとえまずくてもいいから食べみたかった。

稲木君オススメの「きなこ茶」



# 初めての韓国

翻訳部 李 凡

アンニョンハシムニカ。こんにちは。ニーハオ・・・社員旅行で韓国の済州島に行ってきた。わたしにとっては、日本以外に初めての外国だが。二泊三日の旅行で、天気は良かった。少しも寒くなく、とても十一月中旬だと思わなかった。元はツアー旅行そのものが嫌いで、自分で地図一枚を持ってぶらぶらしたりする旅が好きだったが、みんなと一緒に楽しめることが出来ればと思って参加した。

昼食。美味しかったね、あの石焼ピムパップが。韓国式でスプーンで食べるのがマナーで、決しておわんを持ってたいたら良くないと聞いてたので、行儀良く(?)初めての本場韓国料理を頂いた。でも少し足りなかったのか、一時に昼食がすんだのに、三時ごろにお腹がぐ〜と鳴った。我慢しながら観光してから、グランドホテルへ。それは立派なホテルで、庭園が特に美しい。済州島では、南国の植物が多く植えていて、空気もすごく新鮮で、大阪で毎日排気ガスを吸っているわたしにとっては、まさに贅沢な享楽地だと言って良いほど、とても気に入った。



キジしゃぶを食べるわたくし

途中、本屋に行きたいと言ったら社長も大喜びで、済州の一番大きな本屋に寄せてもらった。一番大きいと言ってもうちの近くにあるTUTAYAと同じくらいだった。もちろんハングルの本だらけだった。一度ハングルを習おうと思ったことがあるが、結局自分の名前しか言えない程度で終わってしまった。でも、私にとっては、どんな言葉で書かれても見たらわかる本がある。それが暮の本だ。韓国語では囲碁のことを「パドック」というんだ。棋譜が載っている本なら、解説の部分が別にわからなくても、棋譜通りに並べて暮の進行を見るだけでも楽しめるんだ。さっそく世界ナンバーワンの李昌鎔(イーチャンホ)と曹薫玄(チョンフンヒョン)二人の打碁集二冊を入手。15000ウォンは約1500円で、日本の半額ぐらいだが、韓国の金銭感覚では少し高いかもしれない。

ホテルについたらまた時間があつたので、テレビをつけた。あら、パドックのチャンネルがあるじゃ



お気に入りナンバーワンのブルコギ

ないか、これで再び感心した。ちょうどその日に朝日新聞社が主催した第二十三期囲碁名人戦七番勝負に趙治勲名人が王立誠九段の挑戦に四勝二敗一無勝負で防衛し、名人位三連覇、通算八期を達成した翌日なので、番組にその対局が解説されているのだ。韓国では日本のタイトル戦に在日韓国人の趙治勲を応援するが、国際戦になるとし日本棋院に所属する趙治勲と韓国棋院に所属する李昌鎔が対局することになったら、二人とも国籍が韓国だとしても間違いなく本国にいる棋士のほうに味方をするのだ。愛国心を持っている韓国人の国民性を伺うことが出来るんじゃないかと思った。

二日目、お昼のキジ鍋は美味しかったが、観光、乗馬、射撃、ショッピングなど決まったコースで、さすがに疲れた。三日目の未明に起きて、みんなと一緒に山を登り日の出を見てから、民俗村と洞窟などを観光し、お昼に今まで味わったことの無い焼肉を美味しく頂いた。街で普通のスーパーを見つけてそこで生の唐辛子を買った。日本のスーパーでも唐辛子は売っているが、ぜんぜん辛くない。ショッピングはずっと観光客向けの店ばかりに連れられていかれてつまらないので、普通の韓国人が生活している環境で買い物を実験してとてもよかった。



二人共に韓国食文化を堪能

済州島は有名な観光地として、ホテルや観光名勝などに韓国語はもちろん、日本語、英語及び中国語のパンフレットがたくさん置かれていて、観光客にとってはとても便利だが、なぜか道路標識はハングルしかなかった。せめて英語ぐらい併記してもらえないと、ハングルの読めない人の一人旅だったらお手上げた。仕事柄のせいかな、とても残念だと思った。

今回の旅行では、初めての韓国を体験しただけで良かったと思うが、本物の韓国を味わった感じがしないのはとても残念なことだ。



兄ちゃん、味噌入れたかい?

## 韓国初次游

安尼用哈西木尼卡。空尼其瓦。你好・・・

今年の会社旅行は到韓国の済州島、对我这个在日本居住了十年的人来说，是第一次的国外旅游。本来我只喜欢一个人拿一张地图随便乱逛，对这种团体旅行极不感兴趣，不过毕竟是公司组织的旅行，只好随大溜了。

早上乘坐大韩航空公司的飞机，安全地降落在济州机场，天气很热，根本不象十一月中旬，机场附近遍是棕榈等热带植物，一派南国风光。空气格外清新，对整日价在大阪呼吸汽车排出的废气的我来说，简直是至高的享受。

中午的韩国烩饭味道不错，只可惜少了些，到三点钟左右肚子就俄得咕咕直叫，参观三姓穴、博物馆和龙头岩之前，顺路到济州最大的书店转了一圈。满棚都是韩文字母，这下我可真成了文盲一个。问一下导游，导游也没弄明白，到底是社长前来解围。我要的书是棋书，即使不懂韩文也可以看得明白。自古称围棋为“手谈”，只要有棋谱，虽然

看不懂文字解说也能慢慢领会。特别是韩国的围棋近年来技压中日，颇有借鉴之处，早就想看看韩国的围棋真髓，好在李昌鎔和曹薰玄两人的大名在韩国可以说是无人不知无人不晓，所以在书店里也很容易就找到了。提到围棋，韩国的电视台专门设有围棋频道，这天正值赵治勲名人击退王立诚九段的挑战，取得名人防卫的翌日，电视里整天都在讲评这场激战。韩国人对围棋的感情绝不一般，赵治勲虽然所属日本棋院，毕竟还是韩国人，就凭“大三冠”这第一人者，也是在日韩国人中的荣耀之一。但是如果他在国际棋战上与李昌鎔对上了，韩国人肯定支持的是李昌鎔，而不是赵治勲。从这一点上我想可以看出韩国人的国民性吧。

短短的三天旅游，每天除了观光就是被导游拉去那些专为外国人开设的没有意思的礼品店，没有接触到真正的韩国生活，印象不是很深，我期待着有一天能够拿一张地图再次踏上韩国的土地。

# 馬に乗る

MAC部 高 允樹

記憶が確かなら、僕は今まで4度、海外旅行をしました。4度すべてが韓国です。

その4度目の韓国旅行は、2度目と同じくKBS社員旅行という形になりました。ただし場所は前回のソウルではなく、済州島でした。

いろいろなことがあって書いていくとキリがないので、よかったこと困ったことを書こうかと思えます。



日の出を見た帰り道

僕にとって一番のハイライトは乗馬でした。旅行前から鄭さんに馬に乗りたいと希望していたので、スケジュールに乗馬が加わっているのを見たときは心が躍りました。

果たして旅行2日目の昼、馬の牧場に到着しました。貸し与えられた黒のカウボーイハットに赤いベストを着込み、手にはムチを持って馬に跨ります。「思っていたほど高くはないな」と、まず思いました。実際、この島の馬はおしなべて小型のようです。バスガイドさん曰く、1年のうち15%しか晴れる日がない貴重な秋晴れの下、希望通り馬に跨って気分が悪かるうはずありません。手綱を引く兄ちゃんはシキリゴ(ムチで)ケツをシバいてと催促してきましたが、少しでも長く馬に揺られていたいと思い、ポンポンと促す程度に叩くだけにしました。

折り返しの小高い丘の上から麓を見下ろしたときは、さながら昔の戦乱の時代の武将にでもなった気分でした。丘の上にいる家族連れを何気なしに見ていると、男の子と女の子が「アンニョンハセヨ」と声をかけてきたので、僕も笑って「アンニョンハセヨ」と返しました。そのときの2人のはにかんだような笑顔が、とても印象的でした。

丘から下って牧場を一周したところで馬から降りました。短い時間だったけど、満足感でいっぱいでした。馬に乗りたいと言っておいてよかったと心から思いました。

ただ観光地化の行き過ぎには正直あきれました。ホテルの周りは日本語の看板であふれ、店の前を通るうものなら「待ってました」とばかり中から日本語ペラペラの店員が声をかけてきます。

韓国に来る前から、いい靴を安く買えたらいい

なあと思っていたので靴屋に行きました。入るとスグに店員が寄ってきます。日本の店でもスグに声をかけてくる服屋や靴屋を嫌う僕は、アツという間に買う気が失せてしまいました。そこで、1人で店に入れば観光客とは思まいと考えて、最終日の朝に店に行ってみました。思ったとおり店に入ってスグに声をかけてはきません。「観光客っぽいけど、朝に1人では来えへんやろしな...」といぶかしげに見ているだけです。しかし「しめた」とばかりに靴を手にとると、いつの間にやらず背後に立ちハングルでペラペラッと話しかけてきました。「ウオンでお安くなってますヨ」みたいな感じのことを言ってるようですが、ほとんど理解しきれません。たまたま店を出ました。

結局、靴は買えずじまいでした。もし次に韓国に行くことがあったら、じゅうぶんに時間をとって店員の攻撃にうち勝ち、楽しい買い物をしたいものです。

最後に、宴会が思った以上にうまくいって良かったです。みなさん、楽しいジェスチャーのご披露、ありがとうございました。



賞品のサンタ帽と変装セットの上間部長

## 写真あれこれ ミニエピソード



済州島のシンボル「トルハルバン」いたる所でこの姿を見かけました。



市場で見つけたのは笑っている様に見えるブタ。韓国では笑顔のブタは縁起が良いらしい。

三姓穴の中まで入ってしまった社長。



最後の夜のお出かけは喫茶店へ。シェークの上に星と月のデコレーションがついてカワイイ。

# 北の国へ

MAC部 太田 晶子

ブラウン管に引き込まれそうな風景が映っていた。グレーの空気に古びた建物。どうやらやっぱり私は北の国が好きらしい。久々にテレビで見たのはスコットランドと離れ島たち。

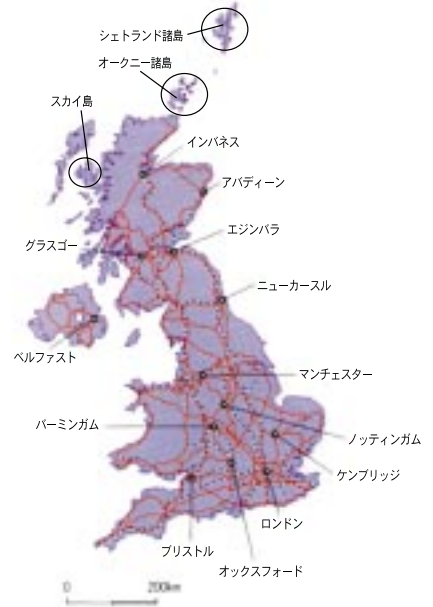
本当はアイスランドかオークニー諸島の海を見たかったのだけれども、私が最も北まで足をのぼしたのはスカイ島までだった。今から5年も前の話だ。北を目指してロビンフッドのノッティンガムからニューカースル、エジンバラ城、アバディーン、ネス湖で知られたインバネス、オーバン、そしてベン・ネヴィス山の麓フォート・ウィリアムへと旅は続いた。イングランドからスコットランドに入ると風景が全く変わってしまう。枯れ果てた色の大地と青々とした山々。勿論エジンバラなどの都市に行けば、街中でタータンチェックのスカートを着たバグパイプ奏者や誰もが連想する「スコットランド」が見られるのだけれども、むしろ私は街の風景より旅路に窓から見えるそんな風景が好きだった。旅の途中で降り立つと、静かすぎる大自然に囲まれた自分がとても心地良かった。そんな大自然も、きっと夜になれば今にも呑み込まれそうな不気味な黒い固まりにしか見えないのだろう。確かに英国北部といえば暗いイメージがあるけれど(英国という国全体が暗いイメージかもしれないが)それは、やはり天気やそういった山や平原のどこか寂しげな景色から連想されるのだろう。

二度目の渡英の最大の目的はスコットランドの「訛り」に触れることだった。一度目はイングランド

での暮らしに慣れての渡英であったが、スコットランドの風景と人との出会いによって色々の影響を受けた気がする。日本で東北訛りがあるように、スコットランドの訛りも大したもの、初めは同じ英語なのに何を喋っているのか全く分からない状態が続いたのだが、話し、聞き、調べていくうちにとても奥が深く、いつか私もスコットランド訛りを身につけたい、と思う程にまでなっていた。

北の空気はイメージ的にどうしてもグレーと表現してしまいがちだが、それでも人々は陽気で楽しい。日本ほど娯楽施設が発達していない為、自然と「パブ」が皆の集まる場所と化してしまうのだけれど、少々のお酒と音楽とダーツとビリヤードなどの飾りすぎないそんな楽しみ方にホッとする「居場所」があったりするものだ。また、芸術関連ではグラスゴー/エジンバラ周辺は大変優れておりなかなか活動も盛んでロンドンに負けじと力を入れている。残念ながら大学の関係で二度目もイングランドの滞在だった為スコットランドでの生活こそ出来なかったが、何度か訪れる度に「ああ、やっぱり北が好きなんだな」と心を打たれるものがある。もし機会があれば今度こそスコットランドで長期滞在したいと思っている。

ちなみに日本国内ではなぜかまだ北へ進んでいない。国土最南端の佐多岬までの西日本は制覇したのだけれど。次回はこの旅について書こうかと思う。



**旅予定メモ**  
基本的な現地交通手段 ➡ バス、電車、寝台列車。余裕があれば自転車、バイク、車、タクシーも可。  
基本的な食生活 ➡ その地域柄を受け入れたい。質素でも良。ベジタリアン生活も体験済。  
基本的な持ち物 ➡ 身軽が一番、時折寝袋必要。心地良い音楽とカメラと地図。  
死ぬ前に訪れてみたい旅先 ➡ アイスランド、アラスカ、モンゴル、チベット、日本でまだ行ってない県。

## Heading to the North



スカイ島に到着

Dark blue sky and old buildings. Scotland was on TV. It reminded me of something and in a way, I felt I was there, it reminded me how much I love the North.

Actually I wanted to visit and see Iceland or Sea of the isle of Orkney when I first made my journey to the North. But I could not make it, since I could only go as far as Isle of Sky. That was five years ago.

I left the city of Nottingham which is famous for Robin Hood. Then I headed to the North, stopping at New-castle-upon tyne, Castle of Edinburgh, Aberdeen, Inverness (known for Loch Ness), Orban and Fort William, the very at the foot of Ben Nevis. Watching the view from the train and the bus, you would notice the change of scenic colour on the way up to Scotland from England. You don't see many deep green colours or clear blue sky in the North. There is only dry-ish

green and mountains. Of course you would be met with the view of the Scotsman playing his Bagpipe (wearing traditional clothes) in the big city like Edinburgh, but let me tell you that I prefer the other side of Scotland view to that. After stopping at Pubs for lunch, I felt so good myself, enjoying fresh air in the middle of enormous natural surroundings. But thinking of it, at the night time, it would turn to the weird black countryside with no lights on, as if it may overwhelm you.

Well, most people tend to think that England (the United Kingdom we call it) is not suitable for holidays because sun doesn't shine. Well it is true for the story, sun doesn't shine as much as isle of Sicily, summer time is so short.

My intention for the second visit to U.K. was to study the Scottish accent. The aim of my first visit to the U.K. was to live in England as they do, but during the time, I went to Scotland on holiday and there I learned lots. Lots with nice people and its landscape. As you may know, just as there are Japanese accents such as Tohoku-ben, there are some different accent in U.K. too. Obviously there is a big difference between England and Scotland's accent, and I was so into that. Well, the air of the North is often described as Grey-ish colour, but people are so nice and cheerful like the colour of sunshine. There are not many amusement shops or places like in japan. So that people come and gather in the local pubs at the night time. The pub is not just for drinking, it is the place for the people to have fun time, get drunk a little, have some nice music, or play darts and billiards. That's almost all they have for amusement. It differs from Japan



エジンバラ中央広場にて

a lot, but they enjoy it so and feel they belong there. Also, Scotland is great for the Art, especially around Glasgow/Edinburgh area, they do a good job.

Against my longing, I couldn't stay up in Scotland because of where my University was. But whenever I go up there, it hits my head, and I realize I love the life in the North. If I ever get the chance again, I would really love to stay and spend some of my life time there for a while.

Leaving the funniest story for the finish, I have never been to the North of Japan. Though I have been to Sata-Misaki (Kagoshima), the very south of Japan main land. Well, I guess I should write about this trip next time.

**PLANS FOR THE NEXT TRIP**  
Basic Transportation ➡ Bus, Train, or Bike, Motorbike, Car, Taxi - only if I can afford.  
Basic Life ➡ I try to eat what they eat, spent vegetarian life before.  
Basic Travel Items ➡ As small as it can be. Perhaps sleeping bag needed. Definitely good music, camera and maps.  
Places to visit before I die ➡ Iceland, Alaska, Mongol, Tibet, and the rest of main land of Japan I haven't been.

初参加した4年前...豪快なフォームから快速球を繰り出す女性投手の前にバントすらさせてもらえず、チームも初戦敗退。

2度目の2年前...初戦でヒットを放つも、2回戦で敗れる。

その雪辱を晴らすべく臨んだ今年の大会だった...

...が!しかし、メンツが足りない。集まったのは、4人。役員さんに加わってもらって出場することになる。

試合が始まる直前になって、加わってくれる役員(ユーコー社さん5人と顔合わせ。「下手ですけどよろしく」という言葉とは裏腹に、どの人を見ても上手そうだ。

さらに、「好きな打順と好きなポジションいってくれはったら、後はうちが埋めますんで」というありがたいお言葉。そんなことを言われても、誰もピッチャーにいけないところが悲しいところだが...。打順の方は1~4番にいかせてもらって、ポジションは僕がセカンド、後の3人がサード、ショート、センターに決まった。

初戦の相手は企画版下(株)さん。

ピッチャーにしてくれた人は経験も豊富のようで、コントロールよく速球を投げ込む。他の4人の方も、堅実な守備を期待できそうだ。

そして不安は的中する。足を引っ張りまくってしまっただの。



賞状と連合軍の仲間達

ショート・サードはフライは落とし、ゴロをこぼし、セカンドはゲッターを焦って悪送球2連発と惨憺たる有様だった。また守備が不安なところに限って打球がよく飛んでくる。それでランナーを背負ってもエースはねばり強く投げてくれ、結局5イニングを3点に抑える快投(自責点ゼロ?)。

バッティングの方でも1~4番は力んで引っかかり打ち上げたりして、5番以降で点を取るといった困った案配であった。挙げ句は「見たかダブルクリンナップ!」とかなんとかわけのわからない言い訳をしている始末だ。それでも、相手チームもエラーを連発しどんどん点が入っていく。終わってみれば13-3の5回コールド勝ち。

我々4人も終盤はようやく地に足つきはじめ、

チームにいい手応えを感じたのは確かだった。

次の試合までのインターバルが長かった。なんと2回戦が不戦勝になりいきなり準決勝進出である。その間に売れ残ったファンクフルトや焼き鳥をいただいて腹を満たし、意気揚々とベスト4に臨んだ。相手は優勝候補の呼び声高いモリサワ株さんだ。

ゲームは初戦のエラー合戦から一転、大



これが3位の賞状です

## ソフトボールに行こう!

MAC部 高 允樹

会史上にも残ろうかという締まった投手戦になる。初戦の失態が身にしみたのか、我々4人も飛んでくる打球をまずまず無難にさばくことができた。

2回表にまずウチが6番のタイムリーで先制をし、追いつかれ、エースのソロホームランでまた引き離す。予断を許さない攻防ではあったが、ペースはウチが掴んでいるようだ。それを裏付けるように、5回に2番タツヒロのダメ押しといえるソロが飛び出す。

大はしゃぎのチームみんなのハイタッチの歓迎を受けホームイン。勝利の女神は確かに我々に微笑んでいたはずだった。

ところがところが、流れというものは本当にわからない。その裏、ランナーを1塁に置いての相手主砲の打球はこの試合ライトに回った僕の遙か上を超えてゆく...。痛恨の同点2ラン被弾である。

次の回は両チーム音なしで、両投手・両チームの好投・好守で展開が早かったこともあり、僕自身初めての最終7イニング目を迎えた。

その表のウチの攻撃。簡単に2アウトをとられたが、またしても2番タツヒロが初球を叩いてのツーベース。3番の僕に打順が回ってきた。

こんな緊張する場面にしては、比較的冷静だったらしい。「1点入

ればいい。でかいのはいらん。ピッチャー返し、ピッチャー返し...」それを念頭にバッターボックスに立つ。

そして1ボールからの2球目を強打、狙いどおりのピッチャー返しだ。しかし、あらかじめ2塁ベースより守っていたセカンドのグラブをかすめて内野安打になり、セカンドランナーをホームに迎え入れることはできなかった。

それでも2死1、3塁とチャンスは広がったのだが、次の打者があえなく凡退してしまい万事休す。裏を抑えてのジャンケンにかけることとなった。

ところが先頭バッターがエラーで出塁し、いきなり2塁まで進む。絶体絶命の場面である。今までの

ようにエースがねばり強く抑えてくれるのを祈りしかなかった。

次打者の打球はセンターへのライナー勢のあたり、ドキッとしたが、がっちりキャッチ。ランナーもそのまま1死2塁。次は左打者。ライトの僕にも緊張が走る。「とりあえず後逸だけは絶対に避けようと頭にいれた。しかし無情にも打球はまたしても僕の頭上を越えていってしまう。サヨナラタイムリー...

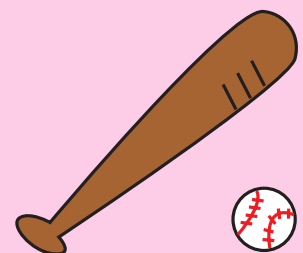
「もうちょっと深く守つときゃよかった!」思わずグラブを地面に叩きつけ、ぐしゃっとかぶっていた帽子を握りしめた。他の人もガッカリしていた。それくらい悔しかったし、いい試合だった。

引き続いて梅田印刷さんと3位決定戦が行われたが、こちらはお互いドッと疲れが出たのかワンサイドゲームになった。12-2の4回コールドで勝利。ユーコー社・ケイビーエス連合チーム、堂々の3位である。優勝はモリサワ(株)さんだった。

来る前は「1回勝って2試合でできたらいいかな」ぐらいに考えていたけど、まさか最後の閉会式まで残ることになるとは思ってもいなかった。もちろん、この3位のトロフィーを獲得できることも...

最後になりましたが、一緒に戦ってくださったユーコー社のみなさん、お疲れさまでした。みなさんが加わってくれなかったら、試合をすることも叶わなかったのだから、本当に感謝しています。来年も連合チームでやれたらいいですね(笑)。

それと、来年はケイビーエス社員のみなさんも積極的に参加してくださいね。



# インターネットで世界を知ろう

企画部 高 暎子(こう よんじゃ)



あるコンサートのリハーサル

異国生活を長くしていれば、自分の国のことはもちろん、現に自分の身をおいているこの国の実情もよくわからない場合が頻繁にある。それもそうだが、異国に住みながらその国の言語を知らないとか何もできないというか、言語以外のことはほとんど耳に入らない。ことばだけ覚えるのに約3年かかり、その3年が過ぎると、韓国の大統領は誰? 流行の映画って何? レオナルド・ディカプリオって? 朴 セリは? マンドギとかサオジョンのシリーズがなぜ人を笑わせるの? というような疑問がなんとなく生じる。それだけではない。IMFとは? この妙なアルファベットの略語が韓国の人々を悩ませる原因は何? などなど。このような状況で私が知っているのは、ただ一つ。それは私があまりに知らなさすぎるという事実である。もちろん世のなかの動きに何の自覚もなく、流されてはいけないけれども、このままではあまりにもなまけな人じゃないかと感ずる今日この頃である。

事実、この頃は大阪でも、韓国で発行したその日の新聞をその日読むことができるという。そればかりか、最近ではインターネットで世界各国が繋がっているの、世の動きを知りませんかと言ったら、私はバカです、私は怠け者です、というような意味でしか通用しない。このような状況をどのように克服すれば良いのかと悩んでいた頃、ちょうどケイビーエスのハングル版のホームページを新しく作成しようという社長の提案があった。html言語もろくに知らない私にホームページを作ってみろ、だなんて、しかもマックではなく、Windowsを使って。困ったものだ。

こういうわけで、まず、勉強からはじめなくちゃとすめられた。勉強はケイビーエスの鉄則のようなものである。「なせばなる」と誰が言ったかしら。

それから一週間が過ぎた。どうやらあれこれチャレンジして、少し情報離れの世界から抜け出すことができたような気がした。いろんな国のホームページを一望し、いろんな会社のインターネット



1998年1月、友人とベネチアにて

の掲示板を拝見しながら、いわばインターネットの仕組みを勉強している(あれ、勉強ばかりしていないで仕事しないと)。

韓国と韓国語を代弁し、しかも世界あらゆる言語の宝庫でもあるケイビーエスで、インターネットを通じてできることは何をさぐりながら、1999年度を迎えようとしている。今こそ、日韓の文化と生活情報のメディアとしてケイビーエスのホームページがそのパワーを発揮する時期ではなからうか。もちろん皆さんのご協力あってのことである。

## 인터넷으로 세계를 알자

이국 생활을 오래 하다 보면, 자기 나라는 물론 현재 몸을 담고 있는 이 나라의 실정도 변변히 잘 몰라 헤매기 일쑤다. 그도 그럴 것이 이국에 살면서 그 나라의 말을 우선 알아야 면장을 하든 무엇을 하든 하는 게다. 언어를 익히는 데 한 삼년을 보내고, 그 삼년이 지나면, 한국의 대통령은 누구고, 무슨 영화가 유행하고, 레오나르도 디카프리오라니 그는 또 누구이며, 박세리라고, 그 사람은 무엇을 하는 사람인지. 만득이니, 사오정이니 그 네들이 왜 사람들을 웃기는 존재인지. 어디 그 뿐이라, IMF 라니 그 또한 알파벳 약자를 너나 없이 의식 해야만 하는 현실은 무엇을 의미하는지. 이는 것이라곤 내가 너무 모른다는 사실이다. 그렇다고 시세에 끌려다닐 필요는 없지만 좀 너무하지 않나하는 생각이 든다.

사실, 요즘은 오사카에서도 한국에서 나온 오늘 신문을 오늘 볼 수 있다고 한다. 그 뿐인가, 요즘은 인터넷이 세계각국 그 어디 할것없이 땅을 치고 있으니, 이젠 세상 물정을 모른다고 하면 나는 바보이다. 나는 게으름뱅이다, 하는 격의 의미로 밖에는 통하지 않는다. 이런 국면을 극복해 볼 무슨 좋은



1998年1月、フォロ・ロマーノの周辺、右が私

수가 없을까 궁리하고 있는 중에, 마침 케이비에스 한글 홈페이지를 다시 만들어 보자는 사장님의 제안이 있었다. html언어가 무엇인지도 모르는 나에게 홈페이지를 만들어 보라니, 거기다 매킨토시도 아니고 Windows를 사용해 보라니, 앞이 캄캄하다. 그래도 어쨌든 우선 공부다 공부. 공부, 이것은 케이비에스의 철칙과도 같은 것이다. 하면 된다 하던가. 그러더니 일주일이지났다. 무턱대고 덤비는 성미라서 그런지, 이것 저것 섭렵하면서 어떤 한계에서 조금씩 벗어나려 하고 있다. 이 나라 저 나라 홈페이지며 이 회사, 저 회사의 게시판을 보면서, 말하자면 인터넷 공부를 하고 있다(어허, 공부를 하면 어찌나 일을 해야지 일!).

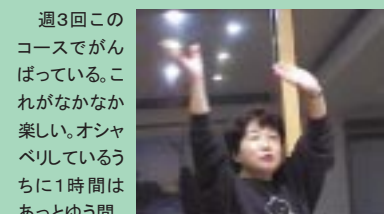
한국과 한국말을 대변하고 거기다 세계 그 모든 언어의 보고인 케이비에스에서 인터넷을 통해 할 수 있는 일이 무엇인가 궁리하면서 1999년을 맞이한다. 특히 일한 간의 문화와 생활정보의 매체로서 케이비에스의 한글 홈페이지에의 기대는 상상 이상의 것이라 할 수 있다. 여러분들의 아낌없는 성원을 기대해 마지 않는다.

## ウォーキング

最近ちよつとがんばっている事がある。それはウォーキング。社長は健康の為ウォーキングを始めているらしい。よく私に「早朝歩きなさいよ、気持ちいいよ」と言っていたが、私は全く聞く耳もたずでいた。

ところが何の心境の変化か同じ階の友達に話してみると、自分自身も会社の同僚に勧められ、一人ではつまらないので私に話してみようと思つたとの事。まさに渡りに船とはこの事。さっそくその晩から実行。家を8時に出発、寺田町の駅まで天王寺ステーションから四天王寺まで廻り、途中に公園があり、そこでアーチ型の鉄さくの上に乗れ、足上げ100回ぶらさがり約1分、調子が良ければジョギング園内2周、9時帰宅。

総務部 北村高子



週3回このコースでがんばっている。これがなかなか楽しい。オシャレしているうちに1時間はあつとゆう間。公園内にアベックがいて、それを見ておばさん達が怒ったり笑ったり本当に楽しい。

今まで何をしても長続きせず、どうなる事かと思つていたが、何とか続いている。この冬はトレーニングウェアも新調したこともあるし、今夜もがんばってこよう。

このページはウインドウズで制作いたしました。



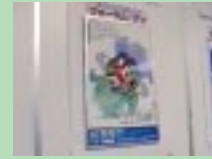
## 異業種交流会フォーラム・アイ

＜大阪商工会議所 生野支部＞



昨年の6月から、大阪会議所生野支部、異業種交流会フォーラム・アイに参加した。現在、23社参加で、本当にいろんな業種が参加している。プラスチック屋、弁当屋、鉄工、弁護士、司法書士、などなど。毎月一回集まって、これから力をあわせて何かをしようと話しあう。講演会も行った。

さる11月には「いきいきおおさか、中小企業フェスタ'98」にパネルを展示した。とにかく、これから何かをする。たのしみだ。



パネル展示

日本に着き、名古屋のいとこの家に一時落ち着くことになりました。村の小学校の運動会の度に帰国しているマラソンランナーのいとこのオッパ(兄)が住んでいる家です。小さい家で一緒に暮らすのは無理なので父は知人に頼んで家を探してもらったことにしました。母はそのままそこに住みだっていました。言葉のわからない母をかげでオッパがいろいろと手助けしていたからです。特に買い物などのときに。

オッパは母の兄の息子で、叔母と甥の間柄ですが年齢もあまり違わず幼い時を同じ家で大きく育ったのでまるで姉弟のように仲良しでした。

時々、父はわざと母にソーダ水を買ってきてと困らせたのです。そんなときオッパはひとし先外に出て、口に人差し指を当てて、母を手招きして一緒に店屋へ行きソーダ水を買って母に渡すのです。母はスマン顔でそれを父に持って行くのでした。オッパが留守のある日

「もう一人で買いに行けるね」と、父は母にソーダ水を買に行くように言いました。父は知っていたのです。いつもオッパが買い物をして母を助けていたことを。私はこのオッパが大好きでした。公園へ連れて行ってもらったり、だ菓子屋へ連れて行き菓子の買い方や、店のおばさんに私はまだ言葉がわからないのでよろしくと頼んでくれたりしました。私たちがこの家に来て間もなくオッパは東京へ引越しました。めったに会えなくなると言っ母はさみしがりました。

頼んでおいた家のみつかり私たちが引越しました。引越したその夜、姉と私は、はしゃいでいました。

玄関で人の声。私たちは顔を見合しました。父は出かけていて言葉の知らない者だけでしたから。それでも大きな声は聞こえます。母も姉も動かないので、私は玄関へ。背の高い角ぼっ顔をした女の人が何か大声で言っています。もちろんチンプンカンプン。それでも怒っている事だけは察知できました。姉と私は壁に何度もぶつかりりして遊んでいましたから、壁一重の隣の家に響いたのです。私は、だまって、その人の顔を見上げて立っていました。その人はひとことみこと、なおブツブツことばを残して去りました。母は奥の部屋でかたまつたようになって泣きそうな顔で深い溜息。しばらくして、姉が小さい声で

「チョヨギノルレ(静かに遊ぶように)」と言いました。私は「えっ?」と思いました。それまで私は姉が日本語を話せることを(学校で日本語を習って

いることを)知りませんでした。(村へ時折り地面につくほどのサーベルをさげた日本人の巡査が来て、姉を連れて行きました。そんなとき私は姉がどんな悪いことをしたのだろうと胸がどきどきしました。祖母のチマで顔を半分かくして、姉がしよんぼりとして巡査に連れられていく後姿を見守っていたことを思い出しました。この晩、姉は通訳をするために、呼ばれていたのだとわかりました。)

翌日からは、姉と私は決して家の中で故郷式の遊びはしませんでした。くんずぼれつのはげしい遊びをです。

すから。

日本にきて間もなく私の長かった3つあみの髪は母が散髪してオッカバになりました。それが短く切り過ぎ、しかも不揃いでまるで男の子のようでした。私はそのトラがりのオッカバあたまを鏡で見たとき、言葉も出ませんでした。見たこともない女の子ではありませんか。私は鏡でそのオッカバを見ては泣き、見ては泣きました。半日ほど泣きました。めったに泣かないおとなしい私が長時間泣いたので母は驚きその後からはプロに私の散髪をさせました。

三軒長屋の角家が私たちの家でした。壁一枚で隣の家。言葉の通じない人が住んでいます。しかも最初の顔合わせが叱りに来た大きな人。

私は、この見知らぬ人が来たことで、日本へ来るんじゃないやなかつた泣きたい気持ちになりました。息を潜めて生きねばならないことをこの瞬間から肌で感じました。

その隣の家には私より少し小さい女の子がいたけど、そこに6年近く(空襲で家が焼けるまで)住んでいる間中、一度もその子と遊んだ記憶がありません。その子は、私の顔をみるとアカンベをして家の中へ入ってしまうからです。私も意味はわからなかったけど、その子の右目のアカンベに対して両方の目でアカンベをしてあげました。時々アカンベが私とその子とが交わす無言のあいさつでした。(戦後、隣のおばさんは私たちの行方を随分さがしたそうです。焼け跡へ家を再建して私たちと、また、隣どうして住みたいと思って。母が道で偶然出合っ聞いたそうです。今思えばサッパリした性格のおばさんだったのです)

日が経つにつれ私の気持ちは沈んでいきました。家族一緒なのに悲しくなり不安な気持ちになるのです。日本に行きたくない泣いていた姉の気持がこの頃になって理解できました。

これまでの挿絵の私はいつも赤いチョゴリを着ていますが本当は白いチョゴリと黒いチマの幼児時代でした。が、後年母がしみじみ赤いチョゴリを着せて上げたかった、という言葉思い出した。描きだけは赤いチョゴリを描いてきました。

(つづく)

## マダンの児(6話)

翻訳部 朴禮和(パク・エイファ)



野生の子の私としては自分の体より小さい箱の中に押し込められたような窮屈さを感じました。そしてマダンで遊んだ青蛙を思い出しました。(あの雨上がりの日、私につぼに入れられた青蛙もこんな思いをしたに違いない。心から、ごめんね。)

いきなり見知らぬ人が来た事で、私たちはびっくりしたけど隣の人もどんなにか驚いたことでしょう。真っ黒な顔をした(韓国の太陽でしっかりやいた肌はひとときわ黒かった)男の子だから女の子かわからない子が目だけバチクリさせて叱つてもあやまらないし、何もいわないで見上げていたので

多言語

Windows DTP

このページはウインドウズで制作いたしました。

第16回マーケティングツアーに参加  
1998年9月11日~20日

ヨーロッパ旅行

高 仁 鳳  
(ko inbong)

第1日目 出発

朝9時に関西空港に集合。ざっと説明と今回参加のメンバーの簡単な紹介があった。

飛行機はパリ経由でベルギーのブリュッセルへ。パリまで13時間、乗り換えてパリからブリュッセルへ、1時間ぐらい。

パリからブリュッセルへ向かうための乗り換えのとき、フランス入国カードを出した。そのときパスポートも一緒に出したが、係員はパスポートは見向きもせず、カードのみ受け取った。

ブリュッセル空港についてそのまま外へ。入国審査とか、税関とかなんにもない。そのまま、外へ出て迎いの観光バスに乗ってホテルへ。その名はラディソンSASホテル・ブリュッセル。

夕食は先程、機内で食べたのがまだお腹に残っているので、食べたいと思わない。ホテル内のスナックのようなところに源地さんと二人でビールを飲んだ。源地さんはこの旅行でのひとつの部屋で一緒に泊まるパートナーだ。

第2日目 ブリュッセル

朝3時に目がさめた。パートナーの源地さんはまだ眠っている。あたりまえか。日記のようなメモを書くことにした。

5時ごろ外へ出た。寒い。近くになにかオペラ劇場のような建物があった。飲み物を買おうとコンビニのような店を探したが見当たらない。パン屋があった。うまさうなサンドイッチがあった。缶ビールも見えた。それで、缶ビールとサンドイッチを注文し、その店の中で食べた。源地さんに持って帰ろうと缶ビールとサンドイッチを持ち帰りに買ってホテルにもどった。

これら、かたことの英語で意思が通じた。うーむ、うれしい。外国での言葉が通じるということは、

ホテルの部屋に戻った。6時過ぎだ。源地さんも目を覚ましていた。私が買って来たビールとサンドイッチを食べてくれた。実は、この部屋の冷蔵庫が故障で使えない。だから、飲み物が取れないのだ。

7時から、朝食。早めに済まして出かけることにした。

源地さんが町の風景とか看板を写真に撮りたいとのこと。また出かけた。ビールの広場のようところまで出かけた。あとでわかったが、ここはマーケット広場という。つまり、市場の広場というところか。

朝10時、みんなでこのブリュッセル市内観光にでかける。天気はとてもいい。気候も寒くなく、暑くもなく気がいい。

世界ではじめて出来たという屋根着きアーケードを通り、広場へ進む。朝来たところをまた来たが、朝とはちがう。人がいっぱいだ。

そばになんとか像があって、その右腕をなでると幸せになるとか。皆さんその腕をなでなで。そして、つばやく。この不景気吹っ飛ばせるように。

次は小便小僧を見に行った。なんとちいさい。こんなに小さいとは思わなかった。

とにかくこのブリュッセルはいい町だ。

私たちは観光バスに乗り、ブルージュへ。ブルージュへ着いて、ちょっと歩くと雨がふってきた。あんなに天気がよかったのに。

このブルージュのまちはほんとうにヨーロッパの古い街そのものだ。街全体がまるで、映画セットのようであった。馬車も走っていた。

教会があった。ノートルダム寺院。私たち一行はここに訪れた。中に入ってそのすばらしさに感動し、私はビデオをまわしつつけた。

しばらくして回りをみるとだれもいない。はぐれてしまったらしい。まわりを見まわった。しかし、一行は見当たらない。マーケット広場の方へ行った。このブルージュの町もマーケット広場があるのだ。しかし、そこにも見当たらない。絶対、ここに来るはずだとわたしは直感してる。ちょうど広場にパトカーのおまわりさんがいた。このおまわりさんに話



掃除を車でしている



パンを配達、外におかれてる



腕をなでなでしあわせに



小便小僧は思ったより小さい

をして、助けてもらおうと、話しかけた。もちろん、片言の英語。話はこうだ。「私は日本からきた団体旅行者で、マキトラベルで、私が泊まっているホテルはここです。」それからホテルの電話番号を書いたカードを見せて「マキトラベルのガイドさんは携帯電話を持っていますからここにいることを伝えてください」ということをおまわりさんに言おうとした。ちょうどそのときに、私を石田大成社の人が見つけてくれた。

午後4時まで自由時間。私はマーケット広場のまわりを見て回った。4時に全員集合して、再び、ブリュッセルに戻った。

夕食はマーケット広場のそばのレストランで取るの。広場では、テントを張って、いろんなビールを集め、ビアガーデンのような感じでビールを売っていた。営業は夜10時までとのこと。ならば夕食を済まして、ぶらっとここへ来れば、ビールが飲めるなあ、と思った。

こちらの人たち、ヨーロッパの人は比較的時間をかけて食事を取る。ガイドさんから、夕食は2時間ぐらいかけて食べて下さい、と言われた。

ところが、なんと食事が終わったのが、11時すぎ。3時間以上かかったのだ。あの広場でビールを飲む楽しみがパーになった。

### 第3日目 パリへ

ブリュッセルの飛行場から、パリへ。この辺の航空会社は時間にルーズのようだ。小さなデボネアという飛行機にのってパリに着いた。パリの空港はととても大きくて広い。

ここも出るとき入国審査も税関もなく、そのまま観光バスへ。荷物もポーターがバスまで運んでくれた。

まずは昼食。有名なレストランらしい。

ノートルダム寺院へ。映画「ノートルダムのせむし男」の場所だ。ブリュッセルでも寺院を見てビックリしたが、ここはそれ以上、びっくり。ステンドグラスがすばらしい。その他もすばらしい。このすばらしさはとても私には表現できない。

コンコルド広場からシャンゼリゼ通りの方へバ

スは行ったが、そこでは航空ショーがありしかも日曜日であるために、人たちがいっぱい。車もいっぱい。なかなか私たちが乗ったバスが前へ進めない。凱旋門のほうへ向かった。凱旋門のまわりを通り、エッフェル塔が良く見える場所へ。写真に収めた。

私はいま、パリにいる。なんと、すばらしいことか！考えるだけで、興奮する。

夕食は、自由行動だ。源地さんはオプションツアーに参加したので、私は一人ぼっちになった。

どこで飯を食おうか。あまりわからないので、ホテルの近くにある中華料理屋「中華飯店マンハッタン」にした。餃子とコンスープ。この食堂にはやはり日本の観光客が多い。しかも日本語が通じるところで日本人が入りやすいのだろう。食事後どこかへぶらつこうと思ったが、雨が降ってきたのでやめた。

### 第4日目 パリ

今日も朝3時ごろ、目を覚ました。

5時ごろ外へ出た。寒い。どこに何があるのかわからない。ガイドさんがくれた地図を片手にとにかくオペラ座の横をとおり、足の向くまま進んで行った。

宿泊のル・グランホテルはこのオペラ座の近くにあったので、どこへ行こうか、オペラ座を目標で帰ればいい。足の向くまま進んだ。すると、知らぬ間にコンコルド広場にでた。

早朝の町は人も車もあまりない。広場のそばに観光客向けのお土産売り場のような店があった。そこで、日本語で書かれたパリのガイドブックと写真集を買った。

ホテルへ戻るにはヴァンドーム広場から、オペラ座の方へ行けばいい。オペラ座の近くにきたものの、道が斜めに交差していることと、建物の格好

## ブリュッセル ベルギー

が良く似ているために、迷子になってしまった。それで、カフェバーに入って、片言の英語でホテルを聞いたが、あまり英語がブリュッセルほど通じない。手まねボディラングージでなんとか意思が通じたようだ。

何度かホテルのまわりで迷子になって、ようやくホテルの場所がわかるようになった。新聞売り場があちこちに朝早くからあった。パリの町にはネオンがみあたらない。

ホテルに戻って、源地さんと一緒に朝食をとった。日本食があったが、飯が硬い。コメがやはり、日本とは違うのだろう。

今日は夕方まで自由時間なので、源地さんと二人で、シャンゼリゼ通りへ行くことにした。コンコルド広場に再び来た。まだ早いせい、人はあまりいない。昨日はあんなににぎやかだったのに。

シャンゼリゼ通りを歩いて凱旋門の方へ行った。通りにそっているような有名メーカーの店が並んでいた。源地さんはセーターを買った。私も別の店でシャツを買った。

昼食は赤テントのカフェテラスで取ることにした。通りにホットドッグ屋さんがあった。そこにはウイスキーも置いてある。ビールはもちろん、日本では考えられない。ホットドッグとウイスキーと一緒に食べるのか。

もう、ホテルへもどることにした。途中源地さん、トイレに行きたいと、あまりトイレが見当たらない。見つけた。小さい。人がいっぱい。2フラン払ったとのこと。

チュイルリー庭園からまた、ヴァンドーム広場を通してホテルへ戻った。源地さんは休むといった。

私はひとりでまたホテルを出た。スリッパのよう  
(次頁へ)



ブルージュのマーケット広場



朝のコンコルド広場



地下鉄の案内



ブルージュでは馬車が



ルーブル美術館の入り口



地下鉄の中

# パリ フランス

なものを買おうと近くにMarks & Spencerというスーパーマーケットがあったのでそこに入った。そこで簡単にはける履物を買った。ヨーロッパのホテルには日本のようにスリッパを置いていない。西洋ではあまりスリッパをはく習慣がないらしい。スーパーマーケットでもスリッパを見つけることが出来なかった。それで、それに変わる簡単にはける履物を買ったのだ。

三越ETOILEへ鈴木蔵さんの展示を見に行っただ。志野焼という焼き物だが、赤色がすばらしい。さすが、人間国宝である。会場の裏庭に出ると凱旋門が丸見え。

夜は鈴木先生の主催による晩餐会に私たちは参加した。高級レストランだ。本格フランス料理を生演奏の音楽を聴きながら、楽しんだ。

## 第5日目 セミナー

今日は一日中、勉強だ。携帯電話関係のこと。町の携帯電話を販売している店を見まわった。fnacという店とオートボックスのような車の部品売り場を見てまわった。

11時からホテルのセミナー室で、BOUYGUES TELECOMという会社から携帯電話に関するお話があった。

昼食には有名レストランだ。エスカルゴ、いわゆるカタツムリの料理だ。本場だけあっておいしい。

昼からはJSTVというヨーロッパで日本語テレビ番組を衛星中継で行う会社の説明だ。

セミナーが終わって、私一人でパリの町に出た。どうしてもパリの地下鉄に乗ってみたいかった。

地下鉄に乗って、ルーブル宮殿へ行くことにした。地下に降りた。複雑だ。オペラという駅なんだけどとても広い。しかも、下へ、下へと降りていった。結局ルーブルへはどのようにいけばいいかわからなくなった。駅員に聞く事にした。窓越しに、私は地下鉄の地図をもってルーブルへ行くにはどうすればいいかと聞くと、駅員もガラスごしに地図を広げてこう行くのだと示してくれた。そのようにして、なんとか電車に乗った。日本と違って、ドアは

半自動なので、自分であけないといけない。二つ目の駅がルーブルだ。

降りたが、外へ出る方法がわからない。また、気よさそうな人に外へ出る方法を聞いた。もちろん、ポディランゲージだ。その人も親切に対応してくれた。

パリの地下鉄は日本に比べて乗りにくい。本当に近いところなんだけれど、だいぶ時間を費やした。でも地下鉄に乗れたことで、なんだか満足感を感じた。

地下から出るとルーブルの真ん前であった。中庭の方へ入った。中にはガラスのピラミッドのようなものがあった。

入り口はここからであった。しかし、ビデオのテープが切れてきた。いつも予備のテープを一本持っているのに、今回はうっかり持っていなかった。時間も遅いし、中へ入ることをあきらめて戻ることになった。

夜の7時からセーヌ川ディナークルーズがある。オプションツアーだが、源地さんが昨日参加してよかったというので参加することにした。

日本人観光客のためのMy busという観光社があった。ここに私たち以外の日本人観光客たちが集まって一緒にセーヌ川クルーズに参加した。約3時間の観光。船から見るライトアップされた、パリの景色、これはすばらしい。2万9000円。値打ちある。船がエッフェル塔の下を通るときは皆さん陽気に踊りだした。

## 第6日目 バルセロナ

朝早くパリ空港からスペインのバルセロナへ向けて出発。バルセロナに昼頃到着した。

もちろん、ここもなんの検査もなしに外へ出た。天気がいい。空は雲ひとつない。ここは夏だ。急に暑い。まずは、昼食のために、海岸のレストランへ行った。そこは海水浴場があり、ヨットハーバーがあった。海は青くきれいだ。海水浴場では人々が泳いでいた。また、砂場では男女がねそべっていた。その中には、トップレスの女性もいる。

観光ガイドさんの話。スペインの人たちは土日一所懸命にあそび、月曜から金曜までは体をとと

のえて、また金曜の夜から、土日と一所懸命にあそぶのだと。

このスペイン、金の換算がしやすい。一ペセタが約一円だ。

昼食を済ますとバスに乗って観光に出かけた。バルセロナオリンピックがあった、運動場を回って、ガウディに関連あるグエル公園へ。ガウディが残したいろいろな作品といおうか、残したものがある。ほとんどすべてが、直線ではなく、曲線だし、アンバランスである。この公園で全員の集合写真を撮った。全員の写真はこれが最初で最後。これ一枚だけだ。

サグラダファミリア寺院へ行った。変わっている。今まで見てきた教会のイメージとはがらりとかわっている。あのガウディがかかっているのだ。ガウディが1884年からこの教会を建て始めていた。いま私たちが訪れたが工事中であった。完成は200年先になるか、いつになるかわからないとのことだ。信仰には教会が完成することより、建設中のほうが重要らしい。

塔に登るのに、エレベーターもあるが、若い人なら、階段で歩いて登ることもできると、ガイドがいうので、私は歩いて登ることにした。狭いらせん状の階段をぐるぐる上った。さすが、一緒に上った人は、はあはあとしんどそうだが、私は毎日大阪城に散歩を行っていた甲斐があって、そんなにしんどく感じない。

上まで登るとなかなか気持がよかった。これら、ガウディの作品には、興奮する。どうして、こんなすばらしい作品が日本であまり知られなかったのだろうか。それは、私だけが、知るチャンスに恵まれなかったのだろうか。

ホテルに着いた。プリンセサ・ソフィア・インターコンチネンタルというホテルだ。源地さんと夕食を食べに出かけた。レストランより軽い食事が出る場所を探した。

近くにデパートがあった。日本でなら、地下あたりに食堂があるが、地下のほうに行ってみたが、食堂らしきものは見当たらなかった。仕方なく、そこを出てもっと歩いていった。すると、中華料理屋があった。そこにした。日本語が通じた。餃子となにかいくつか注文したが、やはり口に合わない。食べのこしてしまった。

diagonal通りを歩いた。帰り、パン屋によって、サ

ノートルダム寺院の前



凱旋門の前



源地さん撮影に夢中

団長の安部さん



ンドイッチと、ビールを買いホテルへ戻った。

### 第7日目 セミナー

intercomと言う会社がインターネットに関する話をするため、ホテルに来て講演してくれた。

スペインでは3年ほど前から、インターネットがはやりました。日本より、若干遅れている感じがした。でも、この会社の社長さんの話、考え方などすごく幅広く好感がもたれた。それなりにインターネットの可能性の広いことが感じた。

昼食はまた有名レストランに。子豚のまるやきを分けて出された。味は豚肉の味じゃなく、どちらかというとり肉のような味だった。

バスに乗って観光に出た。モンセラットというところ。かわった岩山だ。結構高い山の上に教会が建てられたもんだ。修道院である。ここに祭っているマリアさまはなぜか黒い肌をしている。

ホテルに戻った。源地さんは休むというが、私はホテルのまわりを散歩するとホテルを出た。

ホテルの近くにコピーサービス店があった。ドキュメントとかカラーコピー機を置いていた。大学が近所にあるからこんな店があるのだろう。

近くのカフェバーに入った。店の看板はMANGOと書かれてあった。言葉は通じないが陳列しているものを頼んだ。かきの爪、と何かわからないもの。そして、ビール。カニの爪は日本での味とそう変わらない。もうひとつのものは、口に合わず、食べられなかった。

夕方はさわやかだ。寒くも暑くもない。しかも、風はさわやかに吹いている。新聞売り場があったがそこでは、ポルノ雑誌も売っている。

夕食は、Botafumeiroという有名レストラン。海鮮料理だ。すごい!だけど私はあまり食べられなかった。

ここで、はじめて自己紹介をする機会がもたれた。その間、なかなか、みんなそろって話し合う場をもつチャンスがなかった。

私はここでKBSの社内報を配った。KBSをおぼ

えてもらいたかった。参加者32人、まだ全員の名前と顔が合致しない人がある。まあ、この食事が事実上最後の晩餐みたいなものだ。みんな、この旅行の感想とか、体験を話しあった。

食後、フラメンコの踊りを見に行くことにした。十数人が参加した。さすが、スペインは情熱の国だ。迫力のある踊り、心も血も騒ぐ。しかし、私は飲みすぎたのか、途中で眠ってしまった。だから、すばらしい盛り上がりの場面を見ることができずじまいだ。残念。

### 第8日目 フルタイム

源地さんとタクシーに乗ってミロの美術館へ向かった。今日は一日中自由時間だ。しかも、今日で最後のヨーロッパ滞在の日だ。ミロの美術館に入った。ミロの作品、どこかガウディの影響を感じる。しかし、まあ、私には理解しにくい。

私はひとつ宮崎アニメに出てくる、ある出演のものに似たものを見つけた。これは関連があるのだろうか。

美術館を出て、私たちは地下鉄に乗って、行くことにした。カタロニアへ。切符を買って地下に降りた。フランスよりはわかりやすい。地下鉄のかんじもフランスとあまり変わらない。どこへどういっくかドアのところにはちゃんと表示されているので、行きやすい。

ラムビア通りへいった。人が多い。ほとんどが観光客のようだ。マーケットに入った。野菜やら、果物いろいろといっぱいある。活気があふれている。通りにはみやげ物のようなものを売っている店が並んでいた。その一つの店に入りみやげ物を選んでいるとき、急に表のシャッターがしまった。どうしたのかと聞くと、ひるの2時から、4時迄の2時間は昼休みで、すべての店などがしまるとのことだ。店から外へは裏口から出た。出てびっくり、すべての店が

シャッターを閉めていた。夕食はこの通りのテラスで取ることにした。

シャッターを閉めていた。夕食はこの通りのテラスで取ることにした。

シャッターを閉めていた。夕食はこの通りのテラスで取ることにした。

# バルセロナ スペイン

シャッターを閉めていた。夕食はこの通りのテラスで取ることにした。

### 第9日目 帰国の途へ

朝3時にモーニングコールがあった。バルセロナ空港へ。バルセロナ空港で、免税処理をこの税関の係官にすることにした。してもらえるどうか、心配しながら、頼んでみたところ、OKだ。ラッキー!

バルセロナ空港からマドリッドへ。マドリッドからパリ行きに乗り、パリから大阪へだ。

なんだかまるまる一日を飛行機の中で過ごすことになる。パリ発のエールフランスのボディには韓国のサッカー選手のイラストが大きくかかれてあった。この飛行機によって、12時間パリから、大阪まで行くのだ。

大阪に着いた。団長の安部専務から、荷物が出たら、流れ解散だから、ということで、自然解散になった。

最後になりましたが、この旅行でお世話になった皆様、ありがとうございました。

ラムビア通りには、ピエロが



ミロの美術館で宮崎アニメに出ていたようなものが

海岸の砂場で若い男女が抱きあっている



モンセラット

グエル公園



日本へ帰るエールフランスの機体に韓国のサッカーのイラストが

KBSの売りはもちろん多言語。「こんな言語出来ますか?」という注文もさる事ながら、あるデータを元に、複数の言語による文書を作成したりなんかも出来ます。

たとえば、テーマパークなど世界中からお客様を招く場合、すべてのスタッフが何ヶ国語も話せるとは限りません。また、その反対に、世界に向けて発信するにもです。そんな時、強い味方となるのが各国語に印刷された書類です。これさえあれば、言葉がわからなくても、絵を見ながら、「こちらどうぞ」なんて説明が出来てしまう。しかも、相手は自分のわかる言葉で書かれているわけですから理解度はアップ。まあ便利!

「32カ国語で手紙を作って!」なんてこともありました。今回はKBSで最もよくある注文、韓・中・日三カ国語パターンを御紹介いたします。



KBSのある生野区のハンドブック 韓国語版を制作しました

途切れたりしません。でも、各言語のルールを守りつつ、原本にあわせる。矛盾を感じつつ、よりよい形への訂正はなんと難しいものです。

最後の難関「カラーの違い」。先方より指定されたレイアウトや、カラーデータがあれば別ですが、やはりおまかせではお互いに抱えている色のイメージとは一致しにくいものです。そこで、A3ワイドのカラープリンタで色校正。

原稿入稿

お客様からデータが来ます。(原稿、カット用イラスト・写真、入力データなど)。これは、まず翻訳データ部にいき、原稿の整理、翻訳に入ります。一言で文字データといっても、外から入ってくるデータはどんな形式でやってくるかわかりません。MAC、Windows、様々な使用アプリケーションなどなど。それを、作業しやすいよう「作業可能な形式」にします。ここで各言語に翻訳・入力されたデータは、社内ネットワークを通じて、組版をするMAC部へとやってきます。

組版をする

いきなり三カ国語同時に組版という訳にはいきませんので、まず、レイアウトをきめるため日本語に取り掛かります。(すでに、出来上がったデータが来る場合もあります)。ここで、レイアウトにOKができれば、多言語組版の開始です。多言語組版といっても文字を各言語に置き換えるだけなんです。それだけの事が最も大切なことなのです。

# 多言語データの出来るまで

まず第一に「書体の違い」。同じようなものを選んでみてもなぜかしっかりこない、イメージにあう書体がない、などです。やはり、ここは日本。日本語の書体の多さといったらきりがありません(あたりまえですが)。基本の書体など、かなり揃っているKBSでも、飾り文字などの対応には限界があります。

第二に「文字数の違い」。同じ事書いてるんだからできるでしょ。うーん、それはそうなんですけれども、やはり、翻訳をすると、かなり文字数に誤差はでてきてしまいます。目安としては日本語を1とすると、韓国語は1.5倍、中国語は0.7倍となります。ということは、中国語と韓国語では、場合によっては2倍近い文字量の差がでてしまいます。(ロシア、フランスなど単語の長いヨーロッパの言語では、日本語と2~3倍の差が、なんてことも...)。このように、日本語ベースで作業の場合、すさまじい吹くデータとおしくらまんじゅうのデータが出来てしまいます。これをいかにして、違和感なく読ませることができるか。そこが腕の見せ所?

さあ、出力だ!

KBSでの納品方法は三種類、アウトラインデータ、印画紙、フィルム出力です。印画紙は、版下張り込み用、フィルムは即、印刷工場にまわせます。しかも、どんな言語が一緒になっても面付け可能。面付けソフトを利用して、最大B2トンボ付きの美しいフィルムが届きます。さて、御満足いただけただしょうか?



碧南市ハンドブックの英訳をしました



第三に「バランスの違い」。これは、おもに併記版ゆえの悩みです。一つの単語を数カ国語並べると、「大きさ違いますよ」。単独で作業の場合は気付きませんが、各言語の独特な文字の形は、同じ級数を指定しているはずなのに、なぜか全然違うような気がする。これは、1と2の悩みが合わさった永遠の課題とでもいましょうか。

そして、各言語ごとに翻訳とスペリングのチェック。見出しやタイトルも、マザーランゲージの翻訳者だからできるよりよいバランスをアドバイス。本文だって変なところで

そのほか...

最近では、翻訳のみの仕事にも力を入れています。英語などの特殊な作業環境を必要としないデータの場合、自分で作業はしたいけれどもよい翻訳を探すのってたいへんですね。そんな時、KBSがお手伝いをさせていただきます。その次の作業がスムーズに進むように整理されたテキストデータがあなたの元にE-mailやNiftyで瞬時に送られてきます。もうこれで、ミズのようなFAX原稿に悩みながら作業することもありません。

## 近頃のKBSマック事情

### MAC部 高允哲

マッキントッシュの新しいCPU「G3」シリーズが発表されてずいぶん経つ。私のマックはパワーマック8500/120。我がKBSの主力のCPUは未だ「604」である。「601」や、パワーマック以前のも使っている。相変わらずハード面の進歩はめざましく、それにあわせてマシンを買い換えていったのは当然赤字になってしまう「買い換え」の時期が本当に難しい。私は以前マックの周辺機器を購入するときに大失敗をしたことがある。大容量リムーバブルドライブを購入するにあたり、サイクエストのリムーバブルハードディスクを4台購入したのである。MOドライブがやや優勢かとも思っていたのだが、あの遅さではあまり普及しないのではないかと、思い、また、リムーバブルHDはそのころ使っていた外付けHDより速かったので、かなり安価で外付けHDが手に入ると計算したのである。その頃のハードディスクは市場に出ている最大容量の物でも500MBくらいで240MBくらいのがかなりの高額で売られていたのである。しかし予想はもの見事に外れ、日本での標準はMOとなり、今、新人にリムーバブルHDを見せてもそれが何なのかわからないだろう。

現在、最新のマックOSは8.5である。我がKBSの主力は「8.0」もしくは「7.5.5」である。私は好んで「7.5.5」を使っている。「7.6」がかなり安定していると聞いてインストールしてみたがかなり遅く感じられて捨ててしまった。我々はいつも多言語のシステムを使う。日本語、韓国語、北京語、台湾語の入っているシステムが基本である。場合によってはそこにロシア語やタイ語が加わる。フォントの数の多さも出力センター顔負けである。私がOSで一番に重んじるのはその「速さ」と「安定性」である。それが得られれば多少使いにくくてもいいからまわらない。私の入社した頃のOS「6.0.7」に比べればその両方とも格段に向上したと言っている。それに加えてずいぶん便利にもなった。多言語システムが安定するかどうかはそれを作って使ってみるまでわからない。CPUのパワーにもよるし、それぞれのマックの特性、よく使う拡張機能にもよるだろう。私は今の所「7.5.5」で満足しているのだが、もう少しそうも言っていられないであろう。もう一つの「進化」アプリケーションのアップデートである。主力ソフト「ページメーカー」「クオークエクスプレス」「イラストレーター」「フォトショップ」がどんどん

アップグレードしている。私が使っているのが最新の物はひとつもない。ページメーカーは6.0、クオークは3.3、イラストレーターは5.5、フォトショップは3.0である。もう1~2つ前のバージョンである。そのわけはやはり「速さ」。新バージョンの遅さは我慢ができないのである。そしてその「遅さ」を補う新機能もはっきり言ってなんの魅力も感じない。それは私の使い方にも関係のあることで、例えば、イラストレーターはイラストを描くためのソフトなのでその方面の機能がアップしていくのはすごく当然のことであるが、私にとってはチラシ作成ソフトなのであまり恩恵は受けないのである。イラストなんて白黒のロゴか地図しか書かないのである。フォトショップにしてもゴミ取りとトーンカーブ、レベル補正くらい使えば他は別にいらぬ。しかし、他社との互換性という意味で、バージョンアップを余儀なくされるのである。それはしかたない。そして当然ハード、OSともアップグレードしなければならないのである。そろそろその時期が近づいている。



### 純豆腐チゲ

材料(分量:4人分)

絹こし豆腐 800g 豚肉 100g  
あさり 200g 白菜キムチ 200g  
玉ネギ 1/2 白ねぎ 1/2  
唐辛子粉 大さじ2 ニンニクみじん切り 大さじ1  
たまご 4個 塩、コショウ 適量  
サラダ油 少々 水 3カップ

作り方

1. あさりは塩水につけて、砂を吐かせておく。あざりと水を鍋に入れて沸騰させる。口が開いたらあざりを取り出し、汁はろ過して置く。
2. 豚肉は脂肪分を取りひとくち大に、白菜キムチは中の薬味を取って2~3cmの大きさに切る。
3. 玉ネギは半分は切ってスライスし、白ねぎは笹切りにしておく。
4. 鍋に油をひき、キムチ、豚肉、玉ネギ、みじん切りしたニンニク、唐辛子粉を入れていため、あさりのだし汁を入れる。

5. 豚肉とキムチに火が通ったら土鍋に移し、とうふを入れる。
6. あざりと白ねぎを入れてもう一度沸騰したら塩、コショウで味付けをする。

寒い夜に...

## あたたかいチゲはいかが?

순두부찌개

재료

(分量: 4인분)  
순두부 800g  
돼지고기 100g  
바지락조개 200g  
배추김치 200g  
양파 1/2개  
고춧가루 2큰술



붉은파 1/2뿌리  
다진마늘 1큰술

달걀 4개  
식용유 3큰술

소금, 후춧가루 조금씩  
불 3컵

만드는 법

1. 바지락조개는 소금물에 담궈 해감을 토하게 한다. 토해 낸 조개는 냄비에 불을 켜고 끓여 입이 벌어지면 조개는 건져내고 국물은 체에 걸러 놓는다.
2. 돼지고기는 기름을 때서 저며 썰고 배추김치는 속을 털어내고 잘게 찢는다.
3. 양파는 반으로 잘라 채썰고 붉은 파는 어슷썰는다.
4. 냄비에 기름을 두르고 김치, 돼지고기, 양파, 다진마늘, 고춧가루를 넣어 볶다가 조갯국물을 넣고 끓인다.
5. 돼지고기와 김치가 익으면 뚝배기에 옮겨 담고 순가랴로 순두부를 뚝뚝 떠 넣는다.
6. 바지락조개와 붉은 파를 넣고 한소끔 끓으면 소금, 후춧가루를 넣어 맛을 맞춘다.

### 1999年 年中行事予定

- 1月5日 新年会  
4月 お花見(大阪城公園)  
8月 第10期決算  
花火大会(淀川河川敷)  
11月 社員旅行  
12月 忘年会

### 編集後記

いつもナルゲは社長がすべてを組版、レイアウトをしてきたのですが、今回は社長と3人の社員で作りました。どうでしょう、これまでと違う感じがするでしょうか?

今回もWin、Macの両方で組版をし、面付けをしました。どちらにも多言語が入るように

作られていますので、今後の参考にしていたければ幸いです。

製作メモ

使用アプリケーション

(Windows、Macintosh共通)

Adobe PageMaker 6.5(ページレイアウト)

PhotoShop、Illustrator